

## 第28回植物オルガネラワークショップ

### 学術変革領域（A） 細胞質ゲノム制御 共催シンポジウム

日時 3月12日（木）13:00-19:00

会場 明治大学 リバティータワー リバティールーム（X会場：1013教室）

世話人（50音順）：有村慎一（東大）、泉正範（理化学研究所）、伊藤容子（お茶の水女子大）、加藤裕介（摂南大）、高林厚史（北海道大）、西村芳樹（早稲田大）、山口明日香（東大）、吉本光希（明治大）

このワークショップはどなたも参加可能です。また、ワークショップ後にはミキサーを予定しています。ワークショップおよびミキサーへの参加希望者は、事前に以下のHPからオンラインでの申込みをお願いします。

植物オルガネラワークショップHP：<https://sites.google.com/view/plant-organelle-workshop>

連絡先：西村芳樹（早稲田大学）[ynishimura@waseda.jp](mailto:ynishimura@waseda.jp)

加藤裕介（摂南大学）[yusuke.kato@setsunan.ac.jp](mailto:yusuke.kato@setsunan.ac.jp)

13:00 開会 世話人挨拶

#### 第1部

13:05 種子特性の形成と休眠の確立に果たすオートファジーの役割  
瀬田京介<sup>1</sup>、吉本光希<sup>1,2</sup>（<sup>1</sup>明治大・院・農学・生命、<sup>2</sup>明治大・農・生命）

13:40 植物ミオシン XI による積荷輸送とアクチンリモデリングの協調的制御  
小原惇<sup>1</sup>、富永基樹<sup>1,2</sup>（<sup>1</sup>早稲田大・院・先進理工、<sup>2</sup>早稲田大・教育・総合科学・生物）

14:15 休憩

#### 第2部

14:30 大脳皮質錐体ニューロンにおける細胞内区画特異的なミトコンドリアの性質と機能  
平林祐介（東大・院・工学系）

15:05 オルガネラ接触場を介したミトコンドリアへの鉄供給メカニズム  
大塩聖（学習院大・理・生命科学）

15:40 休憩

#### 第3部

15:55 藻類における連続的な細胞内共生が駆動した光捕集複合体Iの進化  
熊沢穰<sup>1</sup>、伊福健太郎<sup>2</sup>、高林厚史<sup>1</sup>（<sup>1</sup>北大・低温研、<sup>2</sup>京大・院・農）

16:30 ポリスルフィドに着目した葉緑体形成の新たな制御機構  
清水隆之（奈良女大・院・自然科学）

17:05 植物ホルモンと光による転写制御を介した葉緑体ホメオスタシス維持機構  
立花諒<sup>1,2</sup>（<sup>1</sup>京大・院・生命科学、<sup>2</sup>(現)英国ケンブリッジ大・植物科学）

17:40 休憩

#### 特別講演

17:55 植物が変動する光環境による傷害を緩和する戦略  
鹿内利治（京大・院・理）

18:55 総合討論

19:00 閉会

## 「植物ホルモン分析ワークショップ」

日時 3月12日（木）13:30-16:30

会場 Y会場（明治大学リバティータワー 1021教室）

言語 日本語

オーガナイザー：朝比奈雅志（帝京大）、森泉（岡山大）

植物ホルモンは植物の生長や環境応答など、生活環の多くの場面で重要な生理作用を示す化合物群であり、数 ng ~ pg/mg（乾燥重量）という極めて低濃度で作用することが知られている。本ワークショップでは、植物ホルモン分析技術や植物ホルモン分析を活用した興味深い研究事例を紹介すると共に、機器分析に関わる技術的基盤、ノウハウ、植物ホルモン研究の展開などについて、情報交換・議論する場としたい。

- 13:30 始めに  
朝比奈雅志（帝京大・総合理工・環境バイオ/帝京大・先端機器分析センター）
- 13:35 帝京大学・先端機器分析センターにおける植物ホルモン分析  
湯本絵美（帝京大・先端機器分析センター）
- 13:50 地域資源「ゆず」を使った製品加工における苦味処理法の確立に向けて  
栃木県立栃木農業高校・食品科学科・農業環境部食品科学班
- 14:05 岡山大学の植物ホルモン分析プラットフォーム-LC-MSの更新について  
松浦恭和（岡山大・植物研）
- 14:20 亜熱帯常緑広葉樹林を構成する優占種の休眠の特徴および休眠に関わる植物ホルモンの種類  
比江島尚真<sup>1</sup>、蜂須賀莉子<sup>1</sup>、松浦恭和<sup>2</sup>、森泉<sup>2</sup>、鶴川信<sup>1</sup>（<sup>1</sup>鹿児島大・農、<sup>2</sup>岡山大・植物研）
- 14:40 ゼニゴケの無限成長および栄養繁殖を支えるオーキシンのレベルと応答性の調節  
西浜竜一（東京理科大・創域理工・生命生物）
- 15:00 オルガネラ局在に基づくオーキシン代謝物の空間的制御とホメオスタシス調節機構  
林謙一郎（岡山理科大・生命科学部・生物科学科）
- 15:20 理研 CSRS における先端植物ホルモン分析プラットフォームの紹介  
岡本昌憲<sup>1</sup>、小嶋美紀子<sup>1</sup>、竹林裕美子<sup>1</sup>、瀬尾光範<sup>2</sup>、榊原均<sup>3</sup>、平井優美<sup>1</sup>（<sup>1</sup>理研・CSRS、<sup>2</sup>琉球大・熱帯生物圏研究センター、<sup>3</sup>名古屋大・生命農学院）
- 15:40 LC/MS/MSを用いたMRM法による植物ホルモンに関わるタンパク質の検出・定量  
森仁志<sup>1,2</sup>（<sup>1</sup>名古屋大・院・生命農学研究科、<sup>2</sup>福島大・食農学類）
- 16:00 終わりに・総合討論  
森泉（岡山大・植物研）

## 第5回原核光合成生物シンポジウム

日時 3月12日（木）14:00–18:00（参加受付13:30–） 会場 Z会場（明治大学リバティータワー 1022教室）

世話人：原田二郎（久留米大）、塚谷祐介（海洋研究開発機構）、浅井智広（中央大学）、清水隆之（奈良女子大学）

光合成細菌やシアノバクテリアといった原核光合成生物は広い分野で研究されており、日本発の数多くの成果が今も大きなインパクトを与え続けています。本シンポジウムでは、主に光合成微生物の研究を行っている専門家を招いてご講演いただきます。多くの方に光合成微生物の世界に触れていただき、新たな研究が生まれる契機となれば幸いです。当日は現地オンサイトとオンライン配信とのハイブリッド形式での開催となります。どちらのご参加の際にも、以下のフォームへご記入をお願いします（URLまたはQRコードをご利用ください）。

参加フォーム：<https://forms.gle/o5FFWRoR9hW2xcjo7>

※締め切り：3月6日金曜日（交流会に参加しない場合は、前日まで受け付けます）



座長：塚谷祐介

- 14:00 世話人挨拶（原田二郎）
- 14:05 藻類における光捕集タンパク質複合体の構造と機能の関係  
川上恵典（理化学研究所・SPRING-8）
- 14:35 1分子レベルで観る光合成アンテナ系の光捕集戦略  
近藤徹（基礎生物学研究所・総合研究大学院大学 生命創成探究センター）
- 15:05 緑藻ナンキョクカワノリの遠赤色光捕集アンテナ蛋白質におけるアップヒル型励起エネルギー移動の解析  
小杉真貴子<sup>1,2</sup>、柴田穰<sup>3</sup>、斉藤圭亮<sup>4,5</sup>、米田勇祐<sup>2,6</sup>、倉持光<sup>2,6,7</sup>、石北央<sup>4,5</sup>、皆川純<sup>1,2</sup>（<sup>1</sup>基礎生物学研究所、<sup>2</sup>総合研究大学院大学、<sup>3</sup>東北大学大学院理学研究科化学専攻、<sup>4</sup>東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻、<sup>5</sup>東京大学先端科学技術研究センター、<sup>6</sup>分子科学研究所協奏分子システム研究センター、<sup>7</sup>阪大阪大学大学院基礎工学研究科）
- 15:35 休憩

座長：浅井智広

- 15:55 シアノバクテリア *Leptolyngbya boryana* における細胞外小胞を介した光合成色素の分泌・輸送能の解析  
白井健太郎<sup>1</sup>、山本治樹<sup>1</sup>、森仁志<sup>1,2</sup>、大井崇生<sup>1</sup>、谷口光隆<sup>1</sup>、藤田祐一<sup>1</sup>（<sup>1</sup>名古屋大学大学院生命農学研究科、<sup>2</sup>名古屋大学糖鎖生命コア研究所）
- 16:25 未培養だった細菌門 *Vulcanimicrobiota*（旧 WPS-2 or *Ca. Eremitobacterota*）の培養化：系統・生態・光合成  
矢部修平（理化学研究所 環境資源科学研究センター ホロビオン・レジリエンス研究チーム）
- 16:55 「ニトロプラスト」への道：珪藻・ハプト藻の細胞内共生体に見る進化様式  
中山卓郎（筑波大学計算科学研究センター）
- 17:25 閉会挨拶（原田二郎）

## 第23回日本原形質連絡勉強会

日時 3月13日(金) 18:30-20:30

会場 Y会場 (明治大学リバティータワー 1021教室)

世話人: 大場裕介 (帝京大・理工), 野田口理孝 (京都大・院理)

原形質連絡は隣接する植物細胞をつなぐ通路状の構造であり、タンパク質、RNA、植物ホルモン等の移行の場となっていると考えられています。本研究会は年に2回、原形質連絡に関わる研究に携わるスピーカーからの話題提供をもとに議論を行う勉強会を開いてきました。今回は、沖縄科学技術大学院大学の神野智世様にスピーカーをお願いし、議論を行いたいと思います。参加登録等は不要ですが、講演内容に未発表のデータを含みますので当日に簡単な守秘義務誓約への同意の確認を行う予定ですので、予めご承知おきください。

### 座長 大場裕介

- |       |   |
|-------|---|
| 18:30 | はじめに  |
| 18:35 | ヒメツリガネゴケを用いた一次PD形成に関わる新しい因子の探索<br>神野智世 (博士研究員 沖縄科学技術大学院大学・生物デザインユニット) |
| 19:15 | 総合討論  |
| 19:55 | 終わりに  |

## 植物科学プレゼンワークショップ2026

### 「グラフィカルアブストラクトで研究をわかりやすく伝えよう」

日時 3月13日(金) 19:00-20:45 (参加受付 18:45-) 会場 Z会場

講師：大内田美沙紀 (北海道大学 科学技術コミュニケーション教育研究部門)

世話人：古水千尋 (島根大学), 市橋泰範 (理化学研究所), 古谷朋之 (大阪大学)

研究内容を一目で伝えるための概要図「グラフィカルアブストラクト (GA)」。近年、多くの学術誌で GA の提出が求められるようになり、GA があることによって論文がよく読まれ、プレスリリースや SNS を通して拡散されやすくなることも分かっています。

しかし、「GA をどのように作ればいいのか分からない」「見やすく、伝わりやすい GA にするにはどう工夫すべきか」と悩む方も多いのではないのでしょうか。

本ワークショップでは、サイエンスイラストレーターによる GA 作成のコツを学びながら、サンプルを使って実際に GA を制作するワークを行います。

19:00	自己紹介, GA についてイントロダクション
19:15	GA 制作ワーク①
19:45	GA 制作ワーク①レビュー
20:00	GA 制作ワーク②
20:20	GA 制作ワーク②レビュー
20:30	振り返り, 質疑応答
20:45	終了

※ワークショップでは PowerPoint を使用します。当日はパソコンをご持参ください。

このワークショップは、どなたでも無料でご参加いただけます。下記フォームより事前にお申し込みください。参加人数に限りがあるため、早めに締め切る場合があります。

登録フォーム：<https://forms.gle/4eNabWUky8xq1yQU8>

連絡先：古水千尋 ([chihiro.furumizu@life.shimane-u.ac.jp](mailto:chihiro.furumizu@life.shimane-u.ac.jp))

本ワークショップの開催にあたり、公益財団法人中辻創智社より会議開催費の助成を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。

## Japan-Taiwan Joint Seminar for Young Plant Physiologists and Photosynthesis Researchers 2026

**日時** 3月15日(日) 16:40-18:40

**会場** Z会場 (明治大学リバティータワー 1022教室)

世話人: Ting-Hsuan Chan (National Taiwan Univ.), Yuta Hino (Nagoya Univ.), Ming-Yang Ho (National Taiwan Univ.), Ko Imaizumi (Kyoto Univ.), Asuka Kobayashi (Univ. Tsukuba), Takeru Kumagai (Kyoto Univ.), Kana Kuroe (Okayama Univ.), Fumiya Nakano (Osaka Metropolitan Univ.), Airi Oh (SOKENDAI), Ryoya Tadaki (Meiji Univ.), Ryo Tachibana (Univ. Cambridge), Taro Yamanashi (Tohoku Univ., Univ. Cambridge).

植物生理若手の会および日本光合成学会若手の会では、Japan-Taiwan Plant Biology 2026 (JTPB2026) に先立ち、日本と台湾の若手研究者の交流の活性化を目的とした講演会および懇親会を開催します。本集会では、日本および台湾の両方にゆかりがある2名の講師をお迎えし、国内外の研究環境やキャリアパスなどについてご講演いただきます。併せて、少人数に分かれたグループ交流活動も企画しております。日台の若手研究者の交流の促進の場となれば幸いです。

16:40	Reception Desk Open
16:45	Opening Remarks
16:50	My cross-country journey in plant biology: Taiwan, the UK, and Japan Dr. Yen-Ting Lu (Univ. Tokyo)
17:15	Singapore, Germany, Taiwan, then back to Japan—my journey on career development Dr. Yuki Nakamura (RIKEN CSRS, Univ. Tokyo)
17:40	Break
17:45	Self Introduction & Research Sharing Session
18:25	Closing Remarks

※19時から懇親会を予定しています。講演会、懇親会ともに事前申し込みをお願いします。申し込み方法や最新情報は植物生理若手の会・日本光合成学会若手の会のホームページ・SNS アカウントからのお知らせをご確認ください。